



写真:穂が開き切ったマンネンスギ (撮影:令和元年12月24日)

「マンネンスギ」

冬の彩り

木 々たちの落葉が終わると、青々とした常緑植物がより一層目立つようになります。えびの高原を代表する種類といえは、アカマツ、ハイノキが挙げられますが、足元にも力強く寒さに耐えている植物があります。多くの花でにぎわう季節には見向きされることが少ないマンネンスギです。漢字では、「万年杉」と書きますが、スギの仲間ではなくシダ植物の仲間です。一年中つけた葉がスギの葉に似ていることが名前の由来。池めぐり自然探勝路では、乾いた斜面に群落をつくっているのを見ることができ、秋には胞子をとめた胞子嚢を穂状につけ、風にのせて胞子を飛ばします。冬は穂が開き、触れるとかすかに残った胞子がふわっと舞い上がります。美しい発色のため、料理の飾りとして添えられることがあるほか、盆栽としても人気があり、栽培もされています。冬になると目立ち、存在感を発揮するマンネンスギ。冬の林の貴重な彩りに足をとめて楽しんでみてください。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

マンネンスギ
Lycopodium dendroideum

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

